

中国語における外来語の多様性

2002251005 小川阿佑美

1. はじめに

中国語の外来語では、音訳に止まらず、意識、一部意識、音訳兼意識、意味内容付加、造字といった方法で外来語を受容している。筆者は中国語における外来語の受容の多様性に着目し、卒業論文として『中国語における外来語』を執筆した。本稿はその第三章「中国語における外来語の多様性」で行った考察結果をまとめたものである。ここでは外来語の全体的傾向をつかむことを目的として、刘正焱等(1984)から英語来源の語彙を取り上げ、音訳(省略も含む)、意識、一部意識、音訳兼意識、意味内容付加、造字等に分類する作業を行った。

今回研究対象とした刘正焱等(1984)は高名凱、刘正焱、麦永乾によって文化大革命前の1966年に初稿が出来ていたものの、当時は出版されず、文化大革命後に史有为の手によって再編集され、1984年に出版されたものである¹。従って、文化大革命、改革開放という激動の時代を十分に反映した辞典とは言えない。しかし、本辞典以降出版された本格的な外来語辞典としてはわずかに岑麒祥(1990)があるのみで、しかも岑氏の著は人名等の固有名詞も多く収録されているので、本辞典とは性質が異なる。刘正焱等(1984)は出版から20年以上経った現代においても外来語研究のよりどころとなっており、語彙が幾分古いという点を除いては申し分のない研究対象といえる。

2. 外来語全体からみた英語来源語彙の地位

英語から入った外来語の分析・考察に入る前に、まず中国語の外来語がどの言語からどのような分野の語彙をどのくらい受け入れているのかを、史有为のまとめた表をもとに見ることにする。

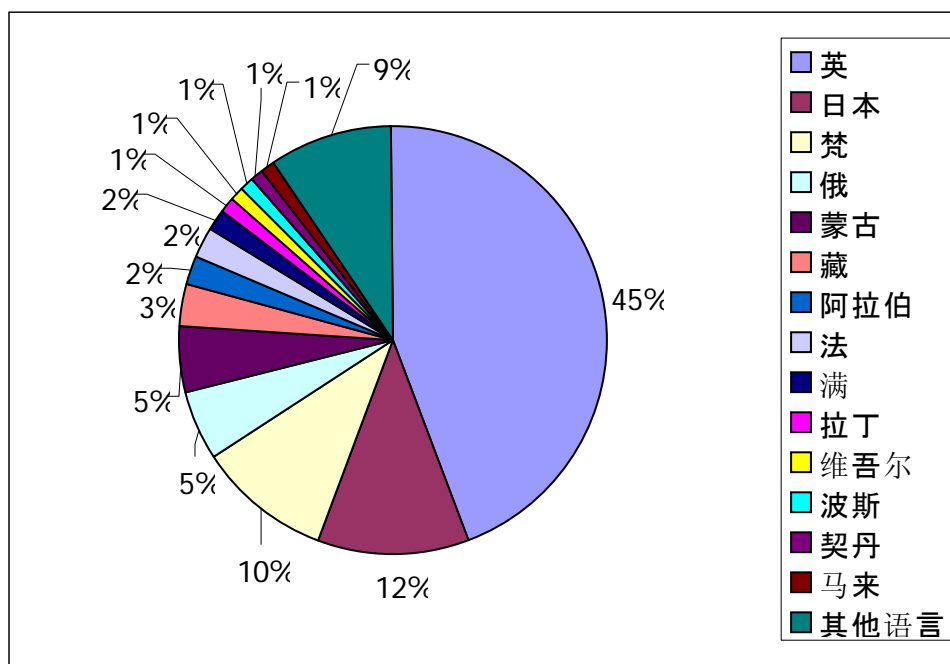
	英	俄	法	拉	梵	阿	波	契	蒙	藏	满	维	马	日	他	计
(1)政治	225	35	21	18	7	7	15	47	105	99	49	17	2	142	172	960
(2)军事	77	11	2	3	5	0	0	10	18	8	7	0	0	39	22	202
(3)经济	214	10	13	2	3	2	1	0	3	6	0	1	6	63	17	314
(4)工业	486	41	8	1	1	0	3	0	5	1	0	0	2	43	8	599
(5)科技	645	9	7	7	3	0	0	0	1	0	0	0	0	93	2	767
(6)社教	122	9	2	26	20	3	0	0	4	1	0	0	0	124	10	321
(7)医卫	370	24	6	1	18	4	4	2	3	2	4	0	0	58	9	505
(8)文体	337	139	23	2	10	1	3	0	17	24	2	18	0	60	114	750
(9)宗教	112	6	2	7	408	63	9	1	65	43	2	12	0	9	43	782
(10)生活	374	65	18	2	61	15	16	10	74	48	22	24	24	63	161	977

(11) 农业	14	5	0	0	1	0	0	0	15	3	0	3	0	6	14	61
(12) 度量衡	59	13	39	4	6	1	0	0	0	1	0	1	1	13	11	149
(13) 自然	344	29	11	4	160	19	33	8	53	10	19	3	25	25	101	844
(14) 余类	47	5	10	11	77	2	0	6	37	10	23	6	16	144	52	446
小計	3426	401	162	88	780	177	84	84	400	256	128	85	76	882	735	7704

(史有为 (2003) p.162)

これは刘正焱等 (1984) に掲載されている語彙を、受容元と分野によって分け、その数量を示したものである。この表から、英語は中国語の外来語にとって主要な受容元であることがわかる。この辞典に収録されている 7704 語の中で、英語から入ったものは 3426 語と最も多く、それに次ぐ日本語 (882 語)、サンスクリット語 (780 語) の約 4 倍である。数の面からいえば、英語が中国語外来語に与えた影響は他の言語とは比べものにならないほど大きいといえる。

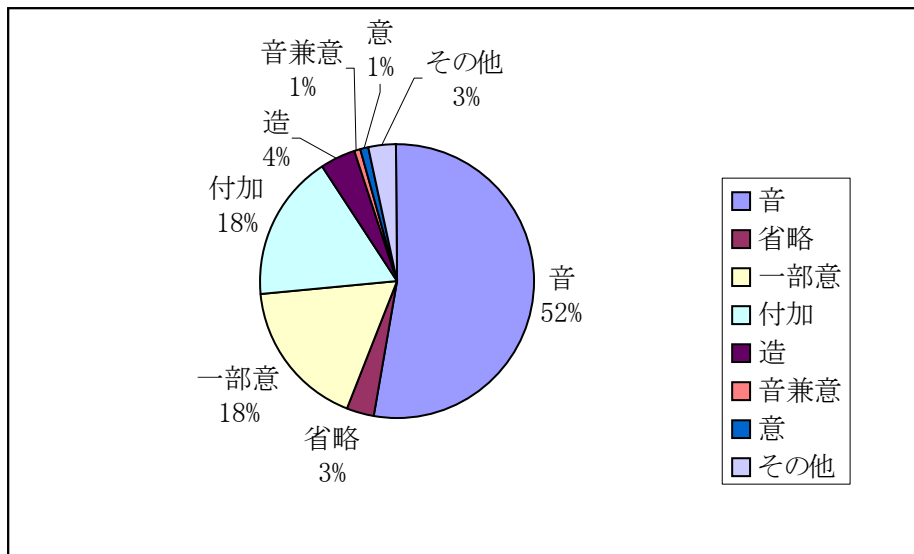
言語別の割合を円グラフに表すと以下のようになる。



3. 英語来源の外来語

筆者が調べた範囲では、本辞典に記載された英語来源の語彙は 3661 語あり、史有为が示した 3426 語より 235 語多い。これは表記の多様性に着目するという立場から、同一の事物・概念を表す語であっても、受容の仕方の違いによって分けるのが妥当であると考え、項目が立てられている語彙だけでなく、それらの別表現として併記されていた語彙も分析対象としたためである。分類の結果は、音訳系 2042 語 (音訳 1926 語、省略 116 語)、意識 21 語、一部意識 645 語、音訳兼意識 31 語、意味内容付加 642 語、造字 153 語であった。この他、分類上どちらとも取れるものが 123 語見られた (うち音訳もしくは付加 40 語、音訳もしくは一部意識 1 語、付加もしくは一部意識 7 語、音訳・付加・一部意識の可能性のあ

るもの 5 語)。また分類できなかつたものは 4 語であった。これら 127 語は分析対象から外すこととする。その割合は下の円グラフのようになった。



音訳語とはもとの言語の発音を中国語の音で再現し、意味に関係なく漢字で書き表したものである。漢字の意味が多少考慮されているものもあるが (40 語)、これらの語も全体から見れば音訳語に相当すると考えられるので、音訳語として扱うこととする。

音訳語が省略された形になっているものは省略に分類し、付加・一部意識語の省略現象については取り上げない。

刘正焱等 (1984) は意識語を外来語と認めていないので、意識語は 0 になるはずだが、音訳語と併存する形として意識語もしくは意識語に近い表記が掲載されていたので、それらは意識語として扱う。また、ある事物を表すために新たに作られた語 (造字) を元にして形成された語もこれに含めた。

一部意識語とは原語の単語の一部分だけを意識して、残りの部分を音訳した語である。

音訳兼意識語とは、語全体が音と意味の両方の面からもとの言葉の特徴を捉えている語である。高名凱、刘正焱 (1958) は部分的に意味を表した語も音訳兼意識と同様に扱っているが¹¹、本稿ではそれらを音訳語として扱う。音訳兼意識語の判断は、主として先行研究によったが、それらに対しても再考を行い、意味を十分に備えているとは考えられないものについては音訳語に分類した。

意味内容付加とは原語を音訳した上で、音訳語の後にその語彙の意味内容や属するカテゴリーなどを付け加えることである。

造字とは外来語を受容する際に、新たな漢字を創造して訳語に当てることである。漢字の偏と旁の組み合わせを利用して、偏によって新事物の属性を示し、旁によって音を表すという造字法が多く用いられる。

以上の基準によって分類を行った結果が上に示した数値である。

4. 分野別に見る訳語の違い

訳語の分類によって見出された分野別の数値の中で、分析できるだけの数が集まったも

のをまとめると以下のようなになる。

	音訳	省略	意訳	一部意訳	音訳兼意訳	付加	造語
化学	182	16	10	71		56	37
医学	166	15	2	46	3	25	
人称	157	3		3	4	7	
貨幣	156	9		2			
楽器	86			12		25	
植物	71	3		10		37	3
単位	69	10		6		2	2
物理	53	23		71		3	
機械	45	2		7		7	
食品	34			14		14	2
ダンス・音楽	34					6	
電気	32	10		44		5	
繊維	32	2		4		26	
音楽	31			3		8	
宗教	30			2		29	
火薬	29			3		9	
薬剤	28			3		3	
動物	21			3		22	3
スポーツ	20			10		2	
衣服	19			9		16	
ダンス	19			2		19	
鉱物	10			7		27	
酒	9					37	
元素	7						91
武器	5			17		7	
機器	16			20		4	

(空欄は0もしくは1)

音訳傾向が強いものには、医学、人称、貨幣、楽器、単位、機械、ダンス・音楽、音楽、火薬、薬剤、スポーツがある。その中でも、人称と貨幣は音訳語が約90%を占めているので、特に音訳傾向が強いといえる。貨幣の場合は、省略語を音訳語の中に数えると99%に達する。

一部意訳の傾向が強いものには、物理、電気、武器、機器があり、50%前後を占めている。

宗教、繊維、動物、ダンスでは音訳と付加がそれぞれ40~50%を占めている。衣服も音訳と付加がそれぞれ約40%あるが、一部意訳も20%ある。

付加の傾向が強いものには、酒、鉱物があり、それぞれ約 80%、60%を占めている。酒の残りの 20%はすべて音訳である。

化学元素は造字の傾向が強く、約 90%を占めている。音訳語もわずかにあるが、造字と併存しているものが多い。

5. まとめ

中国語における外来語では、音訳語が最も多いものの、意識、一部意識、付加など他にも様々な訳語が存在している。これは表意文字を使用している中国語の大きな特徴であると言える。

また、分野別にみると訳し方の違いが顕著に表れる。音訳傾向にあるものでもその割合は分野ごとにばらつきがみられ、特定の分野では音訳語よりも他の訳語の方が多くなっている。音訳傾向が特に強いものは貨幣と人称であり、一部意識の傾向にあるのは物理、電気、武器、機器、付加の傾向が強いものには酒と鉱物があった。また化学元素は造字の傾向がみられた。

6. おわりに

音訳語が絶対的に多い中国語の外来語においては、分野別にみても音訳語がほとんどだと予想していたが、外来語分類表を作成していく過程で、分野別に訳し方の違いがあることに気づき、驚きと共に大きな喜びを感じた。この経験が、私の中国語に対する見方に新たな一面を与えたことは言うまでもない。また今回、卒業を目前にして再度卒業論文に目を通す機会を与えてくださった先生方にも謝意を表したい。

ⁱ 史有为 (2003) p.217

ⁱⁱ 高名凱、刘正焱 (1958) p.164

<参考文献>

刘正焱、高名凱、麦永乾、史有为编 (1984) 《汉语外来词词典》上海辞书出版社

岑麟祥编 (1990) 《汉语外来语词典》商务印书馆

史有为 (2003) 《汉语外来词》商务印书馆

高名凱、刘正焱 (1958) 《现代汉语外来词研究》文字改革出版社